

令和8年度 学校経営計画

四條畷市立四條畷学校

校長 香村 紀子

Ⅰ 学校経営方針

学校教育目標

「みんなで輝き合う 畷小 ～NA^なんどでも WA^わくわく TEAM^てで～」

少子高齢化やグローバル化、デジタル技術の急激な発展など大きな変化が複雑に絡み合い、社会や経済の先行きの不確実さが高まってきており、現代の子どもたちは絶え間ない変化の時代を生きることになる。この時代を生きる子どもたちにふさわしい学びを見直す必要がある中、中央教育審議会は次期学習指導要領の改訂に向けた論点整理を公表し、学校の役割をどう果たすかについて再点検・再検討が求められていく。

四條畷市教育振興計画に掲げられている基本理念「みんなの学びが叶うまち ～生涯 学び 夢 挑戦～」は、これまでの学校教育がめざして取り組んできたことと一致する。私たちが Well-Being を実現させていくに必要な力が、この基本理念には込められている。様々な学びや経験、新たな発想や視点をもって学ぶことを楽しみ、生きる力を育むことが学校の役割の大きな一つといえる。

子どもたちは、それぞれの Well-Being に向かって、学びや挑戦を続けていく。そのための基礎となる育ちの場が学校である。「自分にとっての Well-Being とはなにか」「Well-Being を実現するにはどうすればよいか」などについて、考え行動することを、生涯求めていくこととなる。

子どもたちが、自分のよさを見だし、自信をもって表現できることは、すなわち周りの人のよさを知り受け止める関係性があること実現する。また、なりたい自分をめざしてみようとする 것도、この関係性の中でこそ可能になる。自分自身を輝かせることと周りとの関係性は常に共存している。

だからこそ、学校では、少しずつ段階を追いながら、子どもの育ちを支える場でなくてはならない。

まずは、自分のよさをみだし、なりたい自分に向かってチャレンジしていく気持ちを醸成し、そのチャレンジを支え、成功も失敗もたくさん重ねながら、一歩ずつ成長していくことを見守り、支え、時に促す役割を果たすことができるのは学校であり、子どもたちの学びを支える教職員である。

今年度の学校教育目標は、昨年度「みんなで畷小を創るプロジェクト」を立ち上げ、昨年度の教職員の意見を交わしながら、たどり着いたものである。このプロジェクトの過程で、教職員が少しでも自主的に、この目標に向かって教育実践をすすめていくことができる学校運営を進めていきたい。

すなわち、「子どもたち一人ひとりの可能性を見だし、挑戦を支え、つながりを育む教育を推進する。また教職員が互いに学び合い、協働して子どもたちの成長を支える学校づくりを進める。」

子どもたちにとって、自己表現を安心してできる、成功も失敗も思い切って重ねられる、そんな楽しい学校であることをめざしていく。

★四條畷市教育振興基本計画との関連性

- 主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進(基本方針1)
- 個を認め, 寄り添い, 活かす教育の推進(基本方針2)
- 地域の教育コミュニティづくりへの支援(基本方針3)
- 学びを支える教育環境の整備(基本方針5)
- 学びを支える教育体制の整備(基本方針6)

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちも おとなも 元気で活躍できる学校 ○ 子どもたちも おとなも つながりを実感できる学校 ○ いろんな「楽しい」がある学校
★めざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ○ なりたい自分をみつけ, チャレンジする子 ○ まわりの人とつながる子
★めざす教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちのよさ(輝き)を見つけ, 伸ばす教師 ○ 子どもたちのチャレンジを引き出す教師 ○ 子どもたちを核とした周りにつながる教師 ○ チームとして, 安心して輝き合う教師集団

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校は市内でも一番在籍児童数の多い学校である。南は四條畷神社、東は清滝峠、西は畷生会病院と広い校区を有している。子どもたちは明るく元気でとても人懐っこく、子どもらしさを感じられる子が多い。授業場面では、一生懸命真面目に取り組んでいる様子が見られるが、その成果を十分に発揮できずにいる現状がある。一人ひとりとは様々な状況の中で、課題と向き合いながら学校生活を送っている。

これまで、非認知能力の向上を掲げて取り組んできた。その結果、自分や友だちのよさに少しずつ気づき、自信をつけていく子どもたちの姿が見られ始めた。同時に子どもたちどうしがつながっていくことを意識し、委員会を中心とした学校全体の取組みが行われたり、主体的に行動しようとする子どもたちの活躍を見られたりするようになってきた。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

歴史ある地域にあって、新たに宅地開発がなされているところがある。飯盛山に連なる山々や、昔水車を動力に工場を動かした川があるなど、四條畷郷土史カルタに出てくる場面の多くは、本校の校区内にあるというほど、歴史と自然豊かな環境にある。

本校を卒業するほとんどの児童が四條畷中学校へ進学する。四條畷中学校を中心に、本校及び忍ヶ丘小学校での小中連携を充実させる取組みがすすみ、子どもたちを中学校区で育てようという方向性を共有している。合言葉は「るるる」。「やってみーる・ねばーる・つながーる」子どもたちの姿をめざしながら、それぞれに取組みをすすめていくことで、中学校に進学したときに段差なく円滑な中学校生活を始めることを期待し、また9年間で子どもたちを育てていく意識を教職員も持つことができている。

②地域

創立140年を越えた古い歴史ある小学校である。そのため、地域の方々には、四條畷小学校に対して愛着をもってくださっている方が多くいらっしゃる。

夏には自治会の夏祭り、秋にはだんじりの登場する秋祭りなど、まだまだ地域の行事が継承されている。地域でも子どもたちの育ちを見守っていこうという思いがあり、学校の教育活動についても大変協力的に理解してくださっている。

学校運営協議会は各校や地域に関わる委員構成で運営されている。現段階では中学校での見守り活動・授業支援、3校での大掃除支援の活動を行い、地域で学校を支える

③組織(教職員、PTA、保護者)

昨年度に続き、今年度も新たに若い教員を複数迎えた。多くの教員異動より不安もあったが、全員新たな気持ちでスタートさせた。授業研究には熱心で、子どもたちのわかる授業のための工夫を惜しまない。同時にていねいに子ども理解を深め、一人ひとりに合った対応を組織として行ってきた。様々な対応体制は根付いてきており、その上でそれぞれの学級運営や授業実践をより効果的で子どもたちの意欲を高めるものにするための学びを、多重的にすすめるための学校体制づくりを行った。この体制を子どもたちによりよい学びを実現させられるよう機能させていくことを、個々の指導力向上とともに期待する。

PTAは任意加入を市内でもいち早く導入し、できる人ができる範囲で子どもたちのために何かをしたい、と積極的に活動している。PTA主催の「なわパー」という催しは子どもたちの楽しみな行事として位置づいている。また、歴代のPTAの方々、後援会を組織し、長く学校を応援してくださっている。

保護者は、学校の教育活動に協力的である。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
<p>★四條畷市教育振興基本計画 基本方針1「主体的に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進」 基本方針2「個を認め、寄り添い、活かす教育の推進」 「安心して楽しい学校づくり」 子どもたちも大人も輝き、挑戦し、つながる学校づくりをめざした意識の醸成と取組みの展開。</p> <p>① 「楽しい学校」の実現 ② 学校が安心できる居場所となる ③ 子どもたちが活躍できる場面の設定</p>	<p>児童生徒教職員アンケート・学校教育自己診断アンケート A: (児) 学校に行くのは楽しいと思いますか (R7/82%) B: (保) お子さんは学校に行くのを楽しみにしていますか (R7/88%) C: (児) 授業はわかりやすく楽しい (R7/76%) D: (児) 自分にはよいところがあると思いますか (R7/87%) E: (児) 学校では一人ひとりが大切にされている (R7/83%) F: (保) 学校では一人ひとりが大切にされていると感じますか (R7/87%) G: (児) 先生は、自分が努力したことを認めてくれる (R7/84%) H: (児) 児童会や委員会活動、学級活動では、自分の役割や活動の目標を決めて、楽しく活動することができた (R7/82%) I: (教) 子どもたちが、学校行事や委員会活動などで自分の役割を果たすことができるよう課題設定や条件整備など工夫した (R7/97%)</p>	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
① 「楽しい学校」の実現	A: 85% B: 88% C: 78%	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中での「楽しい」意味を子どもたちと考え合う。 ・わかる授業の展開により、学ぶ楽しさを実感する ・子どもたちの様子を保護者に積極的に伝える
② 学校が安心できる居場所となる	D: 88% E: 85% F: 88% G: 85%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分のよさを見つけることができる活動を意図的に設定し、また関わりの中で実感できるよう意識する。 ・登校状況の確認やほっとルームの活用やSC・SSW等専門家とのつながりなど適切に子どもたちの支援方法を模索し、子どもたちが安心できる学校づくりを進める ・担任以外の教職員も子どもたちとつながりながら、いろんな受け止め場所としての教職員体制を有機的に活用する。
③ 子どもたちが活躍できる場面の設定	H: 85% I: 95%	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動や委員会活動を可能な限り子どもたち主体の活動にしていくようにする。 ・子どもたちが取組んだことにより自己有用感や達成感を持てるよう場の設定や役割を工夫する。 ・子どもたちの活躍や頑張る姿を見逃さず、効果的にフィードバック

		クを行う。
--	--	-------

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>★四條畷市教育振興基本計画 基本方針6「学びを支える教育体制の整備」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校組織力の充実</p> <p>チームで支え合い、協働して成果に近づける取り組みを継続する学校組織となること</p> <p>① 学校組織の一員としての自覚を持ち、TEAMとして協働する意識の向上</p> <p>② 子ども理解を深めることのできる体制強化</p> <p>③ 互いに安心して相談・挑戦できる関係づくり</p>	<p>学校教育自己診断アンケート</p> <p>J:学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取り組んでいる(R7/91%)</p> <p>K:教育活動全般において目的や意図を明確にして取り組んでいる(R7/94%)</p> <p>L:学校運営に自ら少しでも関わることができた(R7/94%)</p> <p>M:児童の問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている(R7/91%)</p> <p>N:様々な問題事案を未然に防止するため、生活指導部が中心になって取り組んでいる(R7/91%)</p> <p>O:教職員間で子どもや授業の話がしやすい(R7/94%)</p> <p>P:四條畷小学校で働くことは楽しかった(R7/88%)</p>

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
① 学校組織の一員としての自覚を持ち、TEAMとして協働する意識の向上	J:93% K:95% L:95%	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末などを活用し、様々な役割の教職員と積極的な情報共有を進める。 ・校務分掌等役割を自覚し行動することを相互に支える。 ・全体で決めたことを推進しながら、よりよい方向性について追求しつづける個人と組織の意識醸成を図る。 ・学校教育目標を軸にPDCAサイクルを活用し、よりよい取組みやTEAMの在り方について検討し続ける。
② 子ども理解を深めることのできる体制強化	M:93% N:95%	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども交流会や校内委員会による子どもを知る機会を設定する。 ・専門家からの助言や研修を受ける場を設定し、子ども理解を広めたり深めたりする。 ・校内研究など授業づくりを通して、教職員で協働しながら学びあう。
③ 互いに安心して相談・挑戦できる関係づくり	O:95% P:90%	<ul style="list-style-type: none"> ・部長会や学年会などの場から、各々の意見を交わすことができる場づくりを進める。 ・部長会を中心に教職員関係を豊かにするしかけや取組みを考え、ミドルアップリーダーシップの発揮を進める。

目標設定区分3 『人の管理・育成』（※業務量管理・健康確保措置実施計画の内容についても）

A 今年度の成果目標	達成基準（各種調査、アンケート等）
<p>★四條畷市教育振興基本計画 基本方針5「学びを支える教育環境の整備」 基本方針6「学びをさせる教育体制の整備」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学び続け、成長し続ける教師の姿から、子どもたちの育ちを支える力を向上させる。</p> </div> <p>① 授業改善に積極的に取り組み、学びを得た実感をもつ ② 経験年数に応じて役割を果たし、互いに学び合う体制の構築 ③ 働きがいを高め、働き続けることのできる環境整備</p>	<p>児童生徒教職員アンケート・学校教育自己診断アンケート Q:教職員間で、授業の進め方について検討する機会があり、授業力が向上したと感じる。(R7/94%) R:校内研究やJKの取組みの中で、授業づくりについての学びが進んだ(R7/91%非認知能力に対する取組みについて) S:授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる(R7/(児)78%(教)100%) T:初任者など経験の浅い教職員を、学校全体で育成している。(R7/97%) U:ストレスチェックにおいて「働きがい」項目(R7/全国50に対し61) V:サービス遵守や不祥事防止についての学びが進んだ (R7/95%)</p>

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
① 授業改善に積極的に取り組み、学びを得た実感をもつ	Q:95% R:90% S:(児)80% (教)100%	<ul style="list-style-type: none"> ・JKの取組みにより、子どもたちが主体的に考え課題解決する授業展開をモデルとして日々の授業づくりに取り入れる。 ・校内研究をはじめとする公開授業に取り組む中で、周りの教職員と協働しながら授業づくりをすすめる。 ・四條畷市授業スタンダードを基本に、子どもたちが自ら学ぶ授業づくりに取り組む。(めあての設定 振り返りの活用) ・教材研究ができる時間を生み出す工夫を見いだす。
② 経験年数に応じて役割を果たし、互いに学び合う体制の構築	T:(教)97%	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者指導加配や学習指導部を中心に、経験の浅い教職員を支え、研修のフォロー体制を整え、共に育つ。 ・学年や指導部での役割が誰でも果たせるよう業務内容の引継ぎを想定しつつ、互いに相談や協働ができる関係性を構築する。
④ 働きがいを感じ、働き続けることのできる環境整備	U:全国50に対し60 V:95%	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職だけでなく、教職員が相互に各教室や業務の状況を捉え、共有し、必要に応じた支え合いができるよう意識を高くする。 ・月1回の職員会議において、計画的に研修を校長が行う。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>★四條畷市教育振興基本計画 基本方針3「地域の教育コミュニティづくりへの支援」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学校・子どもたちの様子を地域及び保護者に 知っていただき、つながりを広げるきっかけを つくる。</p> </div> <p>① 学校だより等の発行 ② 学校運営協議会の活動の活性化と積極的な 発信 ③ 小中連携の充実</p>	<p>学校教育自己診断アンケート</p> <p>W:(保)学校だより,学年だより,学級だよりなどにより学校の教育活動や子どもたちの様子がよくわかりますか(R7/81%)</p> <p>X:(教)学校運営協議会の活動を知っている(R7/53%) (保)学校運営協議会の活動を知っていますか(R7/34%)</p> <p>Y:小中連携会議 年3回以上の開催</p>	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
① 学校だより等の発行	W:83%	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上の学校だよりの発行をする(年間20号をめざす) ・学校だよりについては民生委員など地域の関わりある方にも読んでいただけるように工夫する。
② 学校運営協議会の活動の活性化と積極的な発信	X:(教)65% (保)45%	<ul style="list-style-type: none"> ・例年行われる年末大掃除の取組みについて,協力者を増やし,また様子について発信して周知を図る。 ・大掃除以外の取組みについて実施可能なものについて検討する。
③ 小中連携の充実	Y:・年3回	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携会議開き,今後の方針について再検討する。 ・小中合同の研修を開催し交流と学びを深める。 ・小小連携についても検討する。